

津久見市の給与・定員管理等について

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

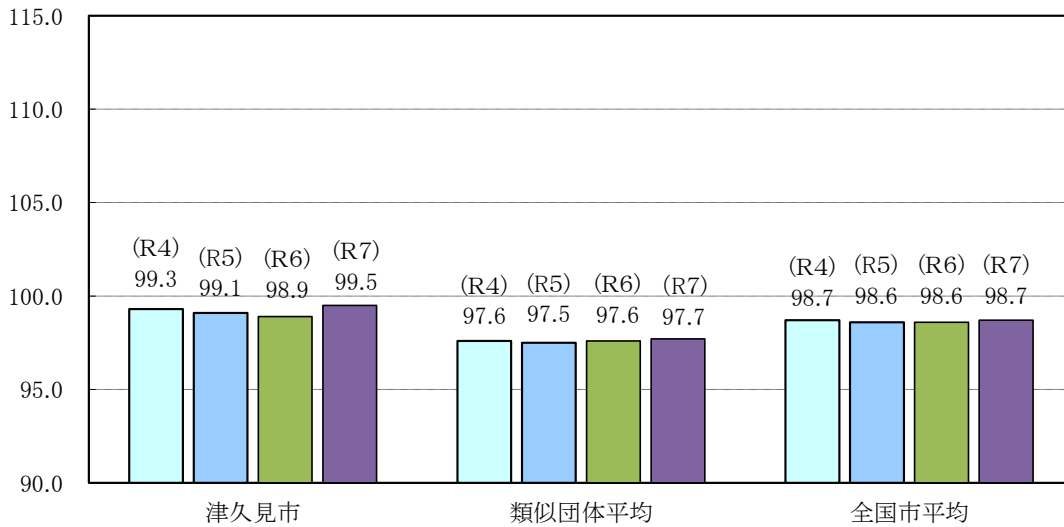
区分	住民基本台帳人口 (令和7年1月1日)	歳出額 A	実質収支 千円	人件費 B	人件費率 B/A	(参考) 令和5年度の 人件費率
	人	千円	千円	千円	%	%
令和6年度	14,589	12,468,581	432,094	2,089,136	16.8	17.1

(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区分	職員数 A	給与費 B				(参考)一人当たり 給与費 B/A	(参考)類似団体平均 一人当たり給与費
		給料 千円	職員手当 千円	期末・勤勉手当 千円	計 千円		
令和6年度	186	679,593	103,307	279,671	1,062,571	5,713	6,004

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。
 2 職員数は、令和6年4月1日現在の人数である。また、任期付短時間勤務職員（短時間勤務）、定年前再任用短時間勤務及び会計年度任用職員を含まない。
 3 給与費については、任期付短時間勤務職員、暫定再任用職員（短時間勤務）及び定年前再任用短時間勤務職員の給与費が含まれているが、職員数には当該職員を含んでいない。

(3) ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数（構成）を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表（一）適用職員の俸給月額を100として計算した指数。
 2 () 書きの数値は、地域手当補正後ラスパイレス指数を指す。地域手当補正後ラスパイレス指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給割合を用いて補正したラスパイレス指数。
 (補正前のラスパイレス指数 × (1 + 当該団体の地域手当支給割合) / (1 + 国の指定基準に基づく地域手当の支給割合) により算出。)
 3 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。
 4 ラスパイレス指数（地域手当補正後ラスパイレス指数を含む）の算出に当たっては、60歳に達した日後の最初の4月1日以後に支給される給料月額について、本来の給料月額の7割水準に設定される職員を除いている。
- ※ 令和7年4月1日のラスパイレス指数が、①3年前に比べ1ポイント以上上昇している場合、②3年連続で上昇している場合、③100を超えている場合について、その理由及び改善の見込み

学歴や経験年数の差による区分だけでは国と職員構成が違うため、指数が増減することがある。

(4) 給与改定の状況

【概要】国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

①給料表の見直し [実 施]

(給料表の改定実施時期) 平成27年4月1日

(内容) 一般行政職の給料表について、国の見直し内容を踏まえ、平均2.0%引下げ。

②地域手当の見直し [地域手当については未支給]

③その他見直し

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況 (令和7年4月1日現在)

①一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
津久見市	41.7 歳	330,500 円	365,269 円	350,234 円
大分県	41.3 歳	327,419 円	409,972 円	354,409 円
国	41.9 歳	332,237 円	—	414,480 円
類似団体	42.3 歳	325,941 円	386,178 円	355,674 円

(注) 1 「平均給料月額」とは、令和7年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。

2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。

また、「平均給与月額(国比較ベース)」は、比較のため、国家公務員と同じベース(=時間外勤務手当等を除いたもの)で算出している。

(2) 職員の初任給の状況 (令和7年4月1日現在)

区 分		津久見市	大分県	国
一般行政職	大学卒	226,400 円	226,400 円	220,000 円
	高校卒	195,200 円	195,200 円	188,000 円
技能労務職	高校卒	— 円	193,200 円	— 円
	中学卒	— 円	— 円	— 円
教育職	大学卒	— 円	252,900 円	— 円
	高校卒	— 円	209,700 円	— 円

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況 (令和7年4月1日現在)

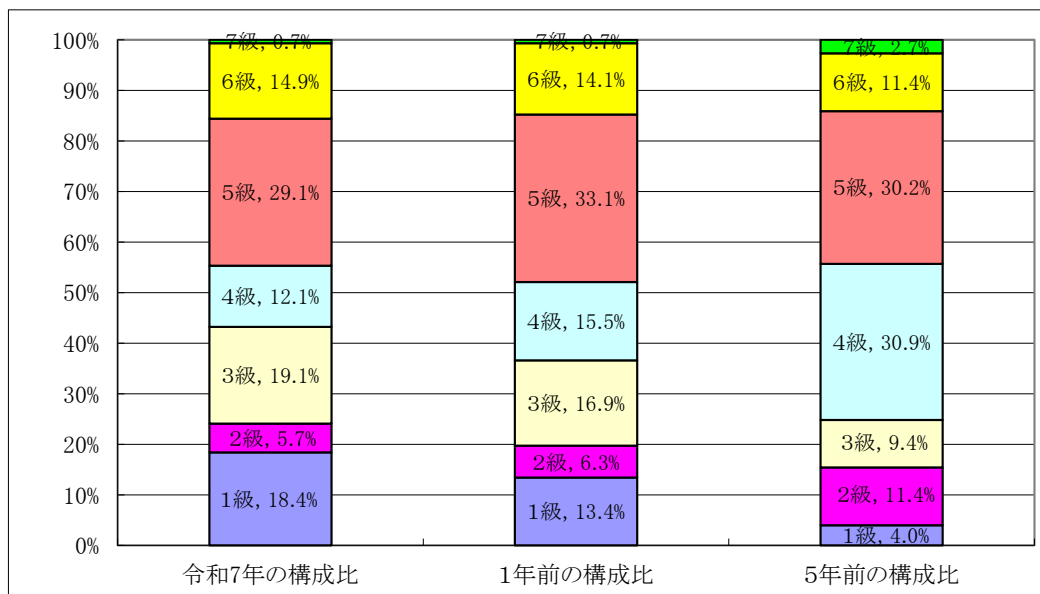
区 分		経験年数10年	経験年数20年	経験年数25年	経験年数30年
一般行政職	大学卒	272,100 円	368,767 円	388,367 円	401,633 円
	高校卒	— 円	— 円	390,125 円	392,633 円
技能労務職	高校卒	— 円	— 円	— 円	— 円
	中学卒	— 円	— 円	— 円	— 円
教育職	大学卒	— 円	— 円	— 円	— 円
	高校卒	— 円	— 円	— 円	— 円

3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数及び給料表の状況（令和7年4月1日現在）

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1号給の給料月額	最高号給の給料月額
1 級	主事、技師	26人	18.4%	184,200円	259,100円
2 級	主事、技師	8人	5.7%	230,900円	309,700円
3 級	主任	27人	19.1%	262,300円	356,000円
4 級	主査	17人	12.1%	288,400円	390,800円
5 級	主幹	41人	29.1%	311,000円	400,700円
6 級	統括主幹、課長	21人	14.9%	336,300円	417,300円
7 級	課長	1人	0.7%	374,800円	452,600円

(注) 1 津久見市の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。
2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(注) 1 平成22年に級別職員構成の是正を実施している。

(2) 昇給への人事評価の活用状況（津久見市）

令和7年4月2日から令和8年4月1日までににおける運用	管理職員		一般職員	
	昇給可能な区分	昇給実績がある区分	昇給可能な区分	昇給実績がある区分
イ 人事評価を活用している				
活用している昇給区分				
上位、標準、下位の区分				
上位、標準区分				
標準、下位の区分				
標準の区分のみ（一律）				
ロ 人事評価を活用していない	○		○	
活用予定時期	未定		未定	

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

津久見市	大分県	国
1人当たり平均支給額(令和6年度) 1,518 千円	1人当たり平均支給額(6年度) 1,725 千円	—
(令和6年度支給割合) 期末手当 2.50 月分 (1.40)月分 勤勉手当 2.10 月分 (1.00)月分	(令和6年度支給割合) 期末手当 2.50 月分 (1.4)月分 勤勉手当 2.10 月分 (1.00)月分	(令和6年度支給割合) 期末手当 2.50 月分 (1.40)月分 勤勉手当 2.10 月分 (1.00)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~15%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~20% ・管理職加算 10%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~20% ・管理職加算 10~25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

○勤勉手当への人事評価の活用状況(津久見市)

令和5年度中における運用	管理職員		一般職員	
イ 人事評価を実施した				
活用している成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率	支給可能な成績率	支給実績がある成績率
上位、標準、下位の成績率				
上位、標準の成績率				
標準、下位の成績率				
標準の成績率のみ(一律)				
ロ 人事評価を活用していない	○		○	
活用予定時期	未定		未定	

(2) 退職手当(令和7年4月1日現在)

津久見市			国		
(支給率)	自己都合	応募認定・定年	(支給率)	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分	勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分
勤続25年	28.0395 月分	33.270750 月分	勤続25年	33.270750 月分	33.270750 月分
勤続35年	39.7575 月分	47.709000 月分	勤続35年	39.7575 月分	47.709000 月分
最高限度額	47.7090 月分	47.709000 月分	最高限度額	47.7090 月分	47.709000 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 措置(2%~45%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 措置(2%~45%加算)	
1人当たり平均支給額	千円	18,702 千円			

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、令和5年度に退職した職員に支給された平均額である。

(3) 地域手当(令和7年4月1日現在)

支給実績(令和6年度決算)			— 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(令和6年度決算)			— 千円
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度(支給率)
	%	人	%
	%	人	%
	%	人	%
地域手当補正後			
(ラスパイレス指数)			

(4) 特殊勤務手当 (令和7年4月1日現在)

支給実績(令和6年度決算)		2,081 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(令和6年度決算)		32,523 円	
職員全体に占める手当支給職員の割合(令和6年度)		30.0 %	
手当の種類(手当数)		6種類	
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
防疫等作業手当	防疫等作業に従事した職員	感染症予防及び消毒業務	日額290円
死体処理手当	死体処理に従事した職員	死体処置業務	一体20,000円
徴税事務手当	徴税事務に従事した職員	市税の徴収事務	(現年徴収額6/1000+過年徴収額10/1000+徴収1件50銭)-5,000円
消防出勤手当	消防職員	救急業務等のための出勤	救急出勤(240円~510円) 火災及び災害出勤(380円~510円)
災害応急作業等手当	災害応急等作業に従事した職員	①巡回監視 ②応急作業等	①日額350円 ②日額530円
動物死骸処理手当	動物等の死骸処理に従事した職員	動物等死骸処理業務	一体500円

(5) 時間外勤務手当

支給実績(令和6年度決算)	47,725 千円
職員1人当たり平均支給年額(令和6年度決算)	262 千円
支給実績(令和5年度決算)	29,602 千円
職員1人当たり平均支給年額(令和5年度決算)	161 千円

(注) 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(5年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

(6) その他の手当 (令和7年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 令和6年度決算	支給職員1人当たり 平均支給年額 支給実績(令和6年度決算)
扶養手当	・配偶者 6,500円 ・子 10,500円 ・父母等 6,500円 ・配偶者がいない場合の1人目の子 10,500円 ・配偶者がいない場合の1人目の父母等6,500円 ・特定扶養加算(16歳~22歳) 5,000円	同		20,714 千円	235,385 円
住居手当	・借家 12,000円以上のもので、 最高27,000円まで	同		16,930 千円	268,724 円
	・持家 新築購入から5年間2,500円	異	制度なし		
通勤手当	・交通機関利用者 月額55,000円を限度として支給	同		8,934 千円	66,673 円
	・交通用具等利用者 2km以上で距離に応じて3,100円~ 13,200円を支給	異	距離に応じて		
管理職手当	・7級相当の課長 50,000円 ・6級相当の課長 40,000円 ・6級相当の参事 30,000円	異	管理又は監督の 地位にある職員	10,920 千円	474,783 円
休日勤務手当	1時間当たりの給与額の135/100を支給	同		11,220 千円	361,936 円

5 特別職の報酬等の状況（令和7年4月1日現在）

区 分		給 料		月 額		等	
給 料	市 長	696,000	円	(参考)類似団体における最高/最低額			
	()	810,000	円	980,000	円/	525,700	円
報 酬	副 市 長	571,200	円				
	()	650,000	円	794,000	円/	495,700	円
報 酬	議 長	402,000	円				
	()		円	530,000	円/	327,000	円
	副 議 長	349,000	円				
報 酬	()		円	470,000	円/	279,000	円
	議 員	325,000	円				
期 末 手 当	市 長	(令和6年度支給割合)					
	副 市 長	2.90	月分				
期 末 手 当	議 長	(令和6年度支給割合)					
	副 議 長	2.90	月分				
退 職 手 当	市 長	(算定方式)		(1期の手当額)	(支給時期)		
	副 市 長	月額×在職月数×45/100		15,033,600	期毎		
備 考	市 長	月額×在職月数×35/100		9,596,160	期毎		
	副 市 長						

- (注) 1 給料及び報酬の()内は、減額措置を行う前の金額である。
 2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

6 職員数の状況

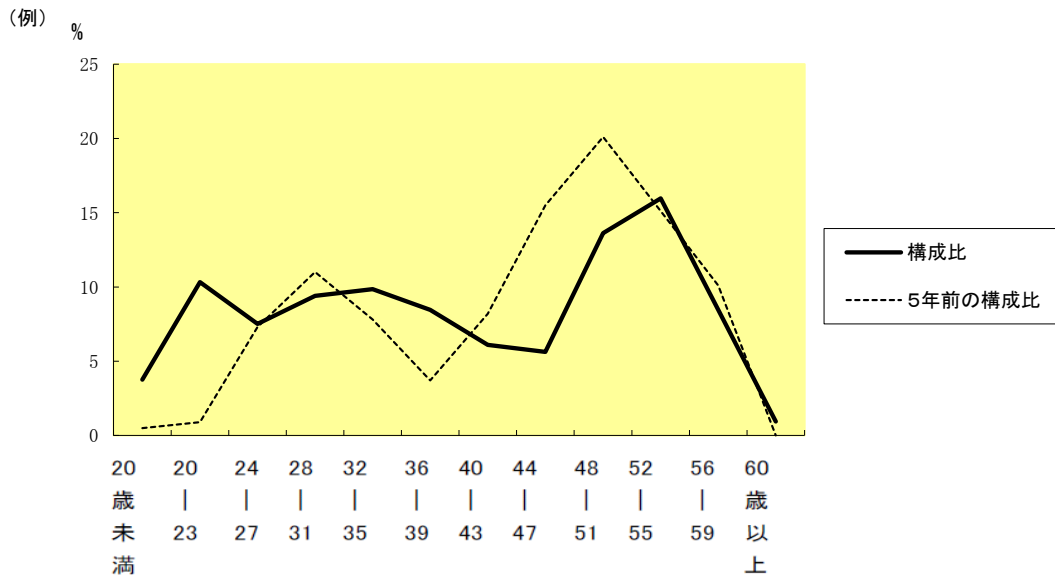
(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

(各年4月1日現在)

区 分		職 員 数		対前年 増減数	主 な 増 減 理 由	
		令和6年度	令和7年度			
普 通 会 計 部 門	一 般 行 政 部 門	議 会	3	3	0	土木技師の採用ができなかったため
		総 務	47	47	0	
		税 務	12	12	0	
		農林水産	10	10	0	
		商 工	6	6	0	
		土 木	15	14	▲ 1	
		民 生	17	17	0	
		衛 生	15	16	1	
	計	125	125	0	欠員補充	
	教 育 部 門	23	22	▲ 1	再任用職員配置による減	
消 防 部 門	39	39	0			
小 計	187	186	▲ 1	<参考> 人口1万当たり職員数 127.49 人 (類似団体の人口1万当たり職員数 70.52 人)		
公 営 企 業 計 等 部 門	水 道	9	8	▲ 1	専門職の採用ができなかったため	
	下 水 道	3	3	0		
	そ の 他	16	16	0		
	小 計	28	27	▲ 1		
合 計	215	213	▲ 2	<参考> 人口1万人当たり職員数 146.00 人		
		[393]	[393]	[0]		

- (注) 1 職員数は、一般職に属する職員数である。
 2 []内は、条例定数の合計である。
 3 職員数は、教育長を除いた数である。

(2) 年齢別職員構成の状況（令和7年4月1日現在）



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数	8人	22人	16人	20人	21人	18人	13人	12人	29人	34人	18人	2人	213人

(3) 職員数の推移

(単位：人・%)

部門 \ 年度	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	過去5年間の増減数(率)
一般行政	127	124	123	122	125	125	▲2 (▲1.6%)
教育	30	30	29	26	23	22	▲8 (▲26.7%)
消防	35	38	37	38	39	39	4 (11.4%)
普通会計	192	192	189	186	187	186	▲6 (▲3.1%)
公営企業等会計	27	27	28	29	28	27	0 (▲0.0%)
総合計	219	219	217	215	215	213	▲6 (▲2.7%)

(注) 1 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数。

7 公営企業職員の状況

(1) 水道事業

① 職員給与費の状況

ア 決算

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参考)令和5年度の総費用に 占める職員給与費比率
令和6年度	千円 299,813	千円 31,384	千円 48,420	% 16.15	% 15.48

(注) 資本勘定支弁職員に係る職員給与費〇千円を含まない。

区 分	職員数 A	給 与 費				(参考)一人当たり 給与費 B/A	市 町 村 平 均 一人当たり給与費
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
令和6年度	人 8	千円 31,931	千円 3,897	千円 12,592	千円 48,420	千円 6,053	千円 6,316

(注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。
2 職員数は、令和6年3月31日現在の人数である。

イ 特記事項

② 職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況(令和7年4月1日現在)

区 分	平均年齢	基本給	平均月収額
津久見市	41.4 歳	346,486 円	390,973 円
団体平均	45.8 歳	345,838 円	524,813 円
事業者	- 歳	- 円	- 円

(注) 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含む。

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

津久見市水道事業		津久見市	
1人当たり平均支給額(令和6年度) 1,597 千円		1人当たり平均支給額(令和6年度) 1,518 千円	
(令和6年度支給割合) 期末手当 2.50 月分 (1.40)月分 勤勉手当 2.10 月分 (1.00)月分		(令和6年度支給割合) 期末手当 2.50 月分 (1.40)月分 勤勉手当 2.05 月分 (1.00)月分	
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~15%		(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算 5~15%	

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

イ 退職手当(令和7年4月1日現在)

津久見市水道事業			津久見市		
(支給率)	自己都合	応募認定・定年	(支給率)	自己都合	応募認定・定年
勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分	勤続20年	19.6695 月分	24.586875 月分
勤続25年	28.0395 月分	33.270750 月分	勤続25年	28.0395 月分	33.270750 月分
勤続35年	39.7575 月分	47.709000 月分	勤続35年	39.7575 月分	47.709000 月分
最高限度額	47.7090 月分	47.709000 月分	最高限度額	47.7090 月分	47.709000 月分
その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 措置(2%~45%加算)		その他の加算措置	定年前早期退職特例措置 措置(2%~45%加算)	
1人当たり平均支給額	千円	千円	1人当たり平均支給額	千円	18,702 千円

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、令和3年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当(令和7年4月1日現在)

支給実績(令和6年度決算)				千円
支給職員1人当たり平均支給年額(令和6年度決算)				円
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度(支給率)	
	%	人	%	
	%	人	%	
	%	人	%	
	%	人	%	
	%	人	%	

エ 特殊勤務手当(令和7年4月1日現在)

支給実績(令和6年度決算)		3 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額(令和6年度決算)		750 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合(令和6年度)		50.0 %		
手当の種類(手当数)				
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (令和5年度実績)	左記職員に対する支給単価
災害応急作業等手当	災害応急等作業に従事した職員	①巡回監視 ②応急作業等	0千円	①日額350円 ②日額530円
			千円	

オ 時間外勤務手当

支給実績(令和6年度決算)	2,206 千円
職員1人当たり平均支給年額(6年度決算)	276 千円
支給実績(5年度決算)	727 千円
職員1人当たり平均支給年額(5年度決算)	91 千円

(注)1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(令和元年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

カ その他の手当(令和7年4月1日現在)

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異動	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績(令和6年度決算)	支給職員1人当たり平均支給年額 支給実績(令和6年度決算)
扶養手当	<ul style="list-style-type: none"> ・配偶者 6,500円 ・子 10,500円 ・父母等 6,500円 ・配偶者がいない場合の1人目の子 10,500円 ・配偶者がいない場合の1人目の父母等6,500円 ・特定扶養加算(16歳～22歳) 5,000円 	同		858 千円	286,000 円
住居手当	<ul style="list-style-type: none"> ・借家 12,000円以上のもので、最高27,000円まで 	同		876 千円	292,000 円
	<ul style="list-style-type: none"> ・持家 新築,購入から5年間2,500円 	異	制度なし		
通勤手当	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関利用者 月額55,000円を限度として支給 	同		332 千円	66,440 円
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通用具等利用者 2km以上で距離に応じて3,100円～13,200円を支給 	異	距離に応じて		
管理職手当	<ul style="list-style-type: none"> ・7級相当の課長 50,000円 ・6級相当の課長 40,000円 ・6級相当の参事 30,000円 	異	管理又は監督の地位にある職員	480 千円	480,000 円
休日勤務手当	1時間当たりの給与額の135/100を支給	同		千円	円